

2024年9月

CWS JAPAN NEWSLETTER NO.96

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

防災の日に寄せて。 在日外国人の「自助」を 助ける取り組み

9月1日は「防災の日」ということから、例年、9月は防災月間として、各地で防災訓練などさまざまな防災啓発イベントが開催されます。CWS Japanが運営するコミュニティ・カフェ@大久保でも、9月は2つほど防災に関する共同イベントや夜カフェを企画しました。

(開催レポートはこちらから)

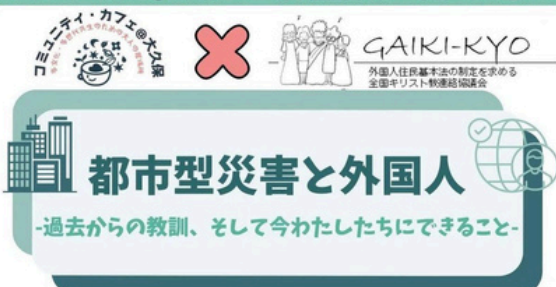


防災の日に寄せて
在日外国人の「自助」を助ける取り組み

from  **CWS JAPAN**
Church World Service

たった一人のためにでも、世界をつなげたい。

コミュニティ・カフェ@大久保 × 外中協全国リレー集会・ジョイント企画



🕒 **2024.9.18(水)** 参加費無料
15:00-17:00 予約不要

📍 **日本福音ルーテル東京教会**
東京都新宿区大久保1-14-14 (JR新大久保駅より徒歩5分、地下鉄東新宿駅より6〜9分)
対面開催 (オンライン配信なし・後日録画配信あり)

首都直下型地震がいつ起きてもおかしくない東京。そこで、多文化・多世代共生を目指す取り組みを大久保で行っているCWS Japanと、29年前に起きた阪神淡路大震災時に神戸で外国人支援に奔走した経験を持つ、二人の支援者から話題提供を行います。災害が起きる前から今私たちにできることを皆さんと語り合いませんか？



共催：コミュニティ・カフェ@大久保、外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会 (外中協)、日本福音ルーテル教会社会委員会、日本キリスト教協議会 (NCC) 在日外国人の人権委員会

問い合わせ：CWS Japan 牧
(03-6457-6840、public@cwsjapan.jp)

夜カフェ

多文化共生 X 地域防災 ケーススタディー

能登半島地震から半年以上が経過してもなかなか復興が進まぬ中、宮崎で震度6弱の地震が発生し、「巨大地震注意」が発表された。次は首都直下型地震か？地震を知らず、日本語能力不足から災害弱者に陥りやすい在日外国人。過去の大規模災害から得られた教訓は？今できることは？都内最大の多国籍タウン大久保で共に考えます。



ゲストスピーカー 菊池哲佳 先生

一般社団法人 多文化社会専門職機構 理事・事務局長
桜美林大学 グローバル・コミュニケーション学群 准教授
2000年に仙台国際交流協会に入職後、主に防災事業、外国人相談事業、地域日本語教育事業を担当し、仙台市における多文化共生の地域づくりに努める。2011年の東日本大震災では「仙台市災害多言語支援センター」の運営に携わり、外国人被災者を支援した。多文化社会コーディネーター (多文化社会専門職機構認定)。博士 (政策・メディア)。

日時
2024/9/18(水)
19:30-21:30

会場
コミュニティ・カフェ@大久保
(日本福音ルーテル東京教会内)
📍 東京都新宿区大久保1-14-14
(最寄り駅：JR新大久保駅、100円ショップCan Do並び)

この事業は文化庁「生活者としての外国人」のための特定のニーズに対応した日本語教育の委託事業です。

こんな人におすすめ

地域防災・多文化共生分野に
関わる、または関心がある
地域関係者・団体・市民・学生・研究者など

申込
不要

参加費
無料

主催：コミュニティ・カフェ@大久保
問い合わせ：CWS Japan 牧 由希子
電話：03-6247-6840
メール：public@cwsjapan.jp

たった一人のためにでも、世界をつなげたい。
 **CWS JAPAN**
Church World Service

関東大震災からの教訓

9月1日が防災の日に制定されたのは、1923年の同日に発生した関東大震災に由来します。この震災は10万5千人の死者・行方不明者を出し、日本史上最悪の被害をもたらしました。

しかしながら、その混乱の中で事実無根の流言・デマが流出したことにより、朝鮮や中国ルーツの人々が民間人（自警団・青年団など）や軍・警察によって殺害されていた史実はあまり語られていません。

去年は関東大震災から100年を記念し、映画『福田村事件』も公開され、このジェノサイドを伝えるためのさまざまなイベントが開催されていました。コミュニティ・カフェ@大久保では、この事件に関するビデオ上映会を企画し、そこに潜むレイシズムや災害発生時に流出するフェイクニュースについて、参加者とともに考えました。

多文化共生な地域で市民・難民・移民が出会い、つながる場づくりから、助け合いが生まれることをめざしてオープンしました

コミュニティ・カフェ@大久保
毎月第1・3水曜日 13:00-17:00

8月16日（水）
関東大震災から100年
—ビデオ上映から考える
多文化共生—

●スケジュール
14:00-16:00（予定）
●場所：コミュニティ・カフェ@大久保
（日本福音ルーテル東京教会内）
東京都新宿区大久保1-14-14
JR山手線新大久保駅から徒歩5分

主権：コミュニティカフェ@大久保
Tel: 03-6457-6840
Email: public@cwsjapan.jp (CWS Japan事務局)

事前予約不要

外国人が抱える災害リスク

コロナ禍が明けたことで、この夏は都内でも各地で祭りや花火大会が開催されました。ある週末、コミュニティ・カフェ@大久保が行っている日本語学習者からわたしにテキストメッセージが届きました。

彼「今日は何の日だ？」

わたし「え？土曜日だけど」

彼「そうじゃなくて、今日は祝日なのか？店を出たら、いきなり人の波が道路を埋め尽くして、自分も巻き込まれて呼吸するのも難しいぐらい、命の危険を感じたんだ」

どうやら、有名な下町の花火大会が終わったところに何も知らない彼がちょうど居合わせ、身動きが取れなくなったところを警備していた警察官に助けられたという話でした。その話を聞いて、2001年の明石花火大会歩道橋事故、2022年に起きた韓国・梨泰院ハロウィン群衆事故を思い出しました。

もしも大都市で震災が発生したら、このような群衆雪崩（なだれ）が発生する可能性は非常に高く、その時外国人は確実に災害弱者に陥ることが容易に予想できますし、フェイクニュースの被害に遭う可能性も否定できません。

在日外国人の自助を促す取り組み

在日外国人の多くは地震がない国の出身者であることから、まだ体験したことがない災害を想像して備えるという「防災」への関心を促すことに、日本人以上の難しさを感じています。

そこで、CWS Japanでは、このような災害弱者予備軍となる外国人を対象に都内最大の外国人集住地域である大久保地区内にコミュニティ・カフェ@大久保という交流拠点を築き、生活者のための日本語学習支援や地域の日本語学校と連携し、留学生を対象にした「大久保多文化共生防災まち歩き」を2023年から開催しています。

有事の際に自分の身を守るために必要な防災
日本語学習支援のほかに、自分達の生活圏域
における避難経路を一緒に歩きながら、避難
所運営や自治会の役割などを学ぶ活動も実施
しています。



日本語学校生を対象にした
大久保多文化共生防災まち歩き ©CWS Japan

多文化共存から多文化共生地域へ

ここまでは「自助」を促すための取り組みで
すが、では、「共助」についてはどうか？こ
れは、さらにハードルが一段高くなる話で
す。

多文化「共存」はできても、「共生」は別問
題です。それは多文化が共生するための「地
域づくり」の課題であることが、この地域で
活動していく中で分かってきました。

わたし自身、過去に農村部の住民参加型地域
づくりに取り組んだ経験はありますが、この
ような大都市圏で多くが流動人口である多文
化住民と高齢化が進む日本人住民が混在する
地域コミュニティでの活動は、これまでにない
ほど複雑で難しいチャレンジであることは
間違いないと考えています。

(文：ディレクター 牧由希子)

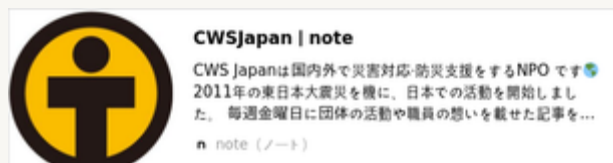
さまざまなSNSで 情報をお届けしています

CWS Japanでは各種SNSで、日ごろから情報をお届けしています。お好きな方法で最新情報をぜひチェックしてみてください



各種SNSは
ここをクリックor
QRコード読み込み

認定NPO法人CWS Japan @Japan_CWS - 9月28日 ...
9月のコミュニティ・カフェ@大久保(@commucafes2023)では、9月4日に「タイ・チー体験」、9月18日に防災月間にあわせて「多文化共生x防災」のイベントを行いました🇹🇼
10月は4本のイベントを予定しています📅
イベント報告&予定の詳細はこちらをご覧ください👉



未知の世界に 飛び込む 村上琴美（インターン）

みなさん、初めまして。今年の8月からインターン生として、CWS Japanで活動している村上琴美です。今回はわたしがここにいる経緯と、現在携わっている業務を少し紹介できればと思います！

安全領域から飛び出す！CWS Japanとの出会い

わたしは慶應義塾大学環境情報学部にて在学しています。わたしの学部は文理に関係なく、興味の赴くまま色々な分野を学ぶことができるため、今までは環境問題や都市生態学、景観学、環境デザイン、中国語などさまざまなことを勉強してきました。また、自身の研究としては、大学に入る以前から長いこと、都市部を対象に環境指標を提案するという事について考えてきました。

学部生としての時間も残すところあと1年半となり、本当にこのテーマとずっと向き合っていくのかと考えた時に、今まで続けてきことを否定したくないという気持ちが強いように感じました。せっかく研究をするなら、本当に知りたいから、楽しいからという理由で取り組みたいと思うようになりました。

そこで、わたしが一番好奇心を揺さぶられる瞬間を考えた時に真っ先に思いついたのが、外国などまったく知らない場所に飛び込んで、分からないながらもその国の文化や言葉、気候、地形などを肌で感じながら理解しようとする時、また、そこで一人の人間と人間の新しいつながりが生まれる時でした。



ベトナムに一人旅して非日常を味わった朝ごはん、最高においしかった

そのような経緯から、思い切って研究室を異動することに決めたわたしは、CWS Japan前理事長のショウ ラジブ先生の研究室に惹かれ、先生とお話しする過程でCWS Japanを知りました。

災害や防災支援についてはもちろん、アフガニスタンやパキスタンの国ともほとんど接点がなく、自分自身の安全領域のような場所から飛び出すことに不安もありました。しかし、本来わたしが求めているものに通ずる何かを感じて、久しぶりにわくわくしたのを覚えています。

パキスタンの洪水は日本の比じゃない

先日、CWS Japanが取り組んでいるパキスタンの防災支援事業の一環で行われた、現地と日本とのオンラインミーティングに参加しました！

パキスタンでの取り組みについては、改めて詳しく記事にする予定ですが、対象としているウマルコートとその西側にあるサマ口地区は、洪水と干ばつを繰り返しています。

ちょうど2年前にも、国土の1/3が水没する大洪水が起き、多くの被害者が出たことはみなさんの記憶にも新しいと思います。

日本もここ最近は台風の影響で雨の日が多く、わたしの住んでいる地域でも大雨警報や川の氾濫による避難警報が発令されていましたが、さすがに日本の1/3が水没するという状況はなかなか想像ができません。

当時はニュースで見て衝撃的な映像に驚きましたが、驚いて終わりでした。今回事業に携わることになり、パキスタンや隣国アフガニスタンの防災について真剣に考える機会を得たので、これから微力ながらも協力できればと思います。

（文：インターン 村上琴美）



何事も楽しみを見出すのがモットーです！

防災・災害対策には 欠かせないハザード マップ作成研修を 実施 パキスタン出張報告

こんにちは、五十嵐豪です。

2024年8月にパキスタン出張に行ってきました。今回の出張の目的は、現地の防災研修を実施すること。どんな内容の研修を行ったのか、実際の様子とともにお届けいたします。

防災・災害対策には欠かせないハザードマップ作成研修

CWS Japanは2024年3月より、パキスタンにおける大洪水からの復興と将来の災害に備えるための防災力強化支援を開始しました。

（事業開始当初のパキスタン出張の様子はこちらから）

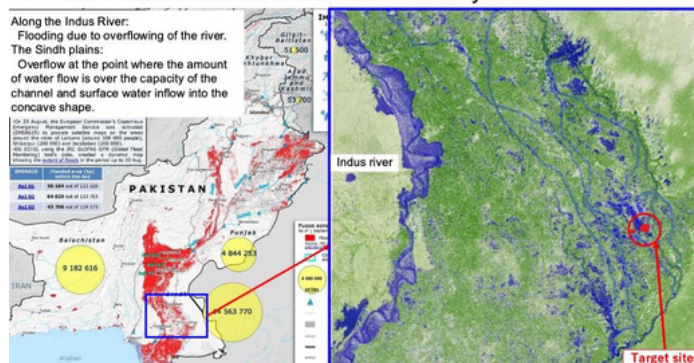
今回実施したのは、防災・災害対策には欠かせないハザードマップを作成できるようになるための研修でした。現地行政の災害対応や防災、農業開発担当局、大学などの研究機関、現地の市民社会団体の職員といった方々が対象で、総勢15人の参加者が4日間にわたり、座学と実地研修で多くのことを学びました。

対象地域を分析、"地域防災"の視点も共有

まず研修の最初に、事前にパキスタンの支援対象地域を衛星写真などから分析した、地形の特徴やそれに伴う災害リスクなどについて解説しました。

続けて日本における「防災」の考え方や「ハザードマップ」の役割を説明し、住民が主体となり作り上げていく地域防災の考え方が大切であることを伝えました。

2. Flood disasters that have occurred in recent years



高低差の少ない地形的特徴を説明し、
どのような洪水対策が考えられるかを説明

パキスタンのシンド州南東部は、インダス川下流の氾濫原の一部にあたり、高低差の少ない平坦な地形が続きます。平坦な地形を利用し、昔から灌漑（かんがい）用水路が発達し、綿花をはじめとした農業が盛んに営まれています。

一方で、山岳地帯や丘陵地帯に比べて、平坦な地形は洪水時の水の流れを予測することが難しくなります。さらに灌漑用水路や道路などの人工構造物が予測をさらに難しくさせます。

ハザードマップ作成の鍵は地域住民の"経験"と"記憶"

地形的特徴からのみでは洪水時の水の流れの予測が難しい場合、最も信頼性の高い参考情報となるのは、過去の経験です。

過去の洪水時の"記録"だけでなく、住民一人ひとりの"記憶"を辿り、どこが浸水して、その深さはどれぐらいで、水がどのぐらいの期間引くことがなかったかという具体的な一つの情報が、ハザードマップを作る上では重要になってきます。



洪水時の浸水状況を一軒ずつ聞き取り、
地図に落とし込んでいく ©CWS Japan



増水時に越水リスクの高い場所を
特定し測量する©CWS Japan

こうして具体的に洪水時の浸水状況を住民から聞き取っていくと、どの家が浸水したかということがわかり、洪水時に避難が必要な家とその人数の予測ができるようになります。さらに、どこの道路が浸水したかという情報と合わせて、ハザードマップに落とし込んでいくと、避難経路の設定もできるようになります。

また、避難が必要な人数に加えて、どのくらいの期間、洪水の水が残っていたかという情報は、避難施設を設置する際の場所や大きさ、備蓄品の量などを決める際の重要な参考情報となります。



研修では聞き取った情報をデータ化して
地図に落とし込む作業も練習しました。

写真左奥でサポートしているのは、
CWS Japan事務局長の小美野@CWS Japan

今回の実地研修では、一つの村を訪問し、住民調査の際に具体的にどのような質問をして、村および周辺の水路や道路等どのような場所を確認しなければならないかをシミュレーションで体験しました。

今回の研修の参加者には、これから約4ヶ月間の間にそれぞれが実際に担当する村を訪問し、ハザードマップを作るために必要な情報を集めて、これをデータ化して、地図をドラフトするという宿題が与えられました。

人間を中心にした災害リスクの捉え方

今回の研修の中で、私が一番印象に残ったのは、「洪水時の浸水の深さが何センチであるかという情報よりも、浸水した家の住民がどのような生活状態になったかという情報の方が重要である」という考え方でした。

水の深さよりも、そこに住む人々がどのような影響を受けるかを考える人間中心のリスクの捉え方を聞き、日本では当たり前のようになっているハザードマップですが、その本来の目的を再認識させられる機会になりました。

"地域に根ざした防災計画"とは、誰かが机の上で計算してつくるものではなく、地域住民は当然ですが、普段から地域の防災に真剣に取り組んでいる今回の研修参加者のような地域のリーダーと共に作るからこそ、意味のあるものになるのだと感じました。

CWS Japanとして、引き続き地域が主体となって取り組む防災を後押ししていきたいと思っています。

(文：プログラム・マネージャー
五十嵐豪)

現地関係者に アフガニスタンでの 取り組みを インタビュー アフガニスタン包括的 防災能力向上事業

CWS Japan のインターン生の中臺野乃花（なかだいののか）です。先日、アフガニスタン防災力向上事業の現地関係者にインタビューを行いました。アフガニスタンはニュースで報道されているように、大規模な自然災害や紛争、テロなどの社会不安を抱えています。「地滑りや土石流などの自然災害に対して、現地でどのように取り組んでいるのか」について、この記事でご紹介します。

（事業の詳細についてはこちらから）



インタビューの経緯

私は6月からインターン生として国内事業に携わってきました。しかし、海外事業にも興味があるということを小美野事務局長が覚えていて下さり、現地にいる事業関係者の方にインタビューをする機会を頂きました。私は、アプローチ・対象者・理解度の確認方法などに興味があり、この点に重きを置いて質問しました。

①防災アプローチ： 地滑りや地盤の緩み、 地下水の浸出へのハード対策

2014年にアフガニスタン北部のバダフシャーで大規模な地滑りが起きました。多くの方々が犠牲となり、家屋も埋まるといった生活面での影響が大きかった災害です。



バダフシャーの大規模崩壊：
Google Earthを用いて作成

同じような被害をまた受けないために現地関係者が行っている活動は、次の3つが挙げられます。

1つ目は、地形図からリスク評価をし、現地訪問を行うこと。2つ目は、擁壁（ようへき）などの構造物を設置すること。3つ目は、コミュニティを移転すること。3つ目の移転に関しては、リスクの高い地域であったとしても、未だ災害が起きていないため承諾を得づらいという正直な意見がありました。また、コスト面を考えると擁壁（ようへき）を作るよりも安価に抑えることができるというお話もありました。

アフガニスタスタン現地関係者は、以前研修として静岡県の大谷崩（おおやくずれ）を視察したことがあり、砂防ダムが多く建設されていたと話していました。私は、現地関係者の方々が日本の過去の災害や取り組みから学びを得ていることを知りました。「大谷崩」という場所さえ聞いたことが無かったのですが、今回のインタビューを通して大谷崩を知り、調べるきっかけになりました。



大谷崩で構造物対策を学ぶ本邦研修参加者
©CWS Japan

②研修参加者の男女比率

アフガニスタンは女性に対しての行動制限があるため、研修参加者はほぼ男性のみで構成されているのではないかと考えていましたが、お話を伺ったところ実際の参加者男女比率は、男性は60%、女性は40%とのことでした。政権が崩壊してしまうと状況が変わり、女性の参画機会は減ってしまうそうですが、様々な工夫を通じて女性も参加できるようにしているようです。

※プロジェクトによって、対象者の男女割合は異なります。

③理解度チェック：

取り組みへの理解度を知る方法

研修理解度のチェックについてどのような取り組みを行っているかを尋ねたところ、ハザードマップの掲示、コミュニティ内での共有・議論によって短期的ではなく、長期的に関わりながら理解度をチェックしています。

インタビューを通しての気づき

アフガニスタンチームの方々は、政治・経済・宗教・教育など多面的な観点からお話を進めて下さいました。特に、教育に関しては女子教育が制限され、学ぶことができる人数が大幅に減っている中、看護師や助産師になることだけは許可されているなど、インターネットでは知ることのできない部分をグラフや数値を用いながらお話して下さいました。災害とは関係ない分野だと思っていても、全て関連していることを学びました。防災事業での苦難を赤裸々に教えて下さったことでほんの少しですが現状を知ることができ、貴重な経験となりました。

政権が崩壊し、精神面・生活面など様々な苦勞をされていますが、CWS Japanの支援を通してアフガニスタンの人々が安全に暮らせることを願っています。私もこの経験を生かして、知見を広めていきたいと思っております。

(文：インターン 中臺野乃花)



皆さまのご理解・ご支援を
心よりお願い申し上げます。

継続的な
寄付

今回のみ
寄付

「タイ・チー体験」 と「多文化共生×防災」の2本立てでお届け！

9月のコミュニティ・カフェ@大久保

9月のコミュニティ・カフェ@大久保は、多世代交流のイベントと防災月間にちなんだ防災×外国人（多文化共生）を考えるイベントを行いました！今回はそのレポートをお届けいたします。

多文化・多世代交流のタイ・チー（太極拳）体験

9月4日には、中国大連出身の新宿区内にお住まいで、中国舞踊・武術のプロである渡部さんをお呼びして、みんなで太極拳を体験しました！



中国舞踊・武術のプロと楽しむ！
タイ・チーカフェ
太極拳カフェ
2024.9.4(wed) 14:30~15:30
主催 コミュニティ・カフェ@大久保
場所 日本福音ルーテル東京教会
Japan Evangelical Lutheran Tokyo Church
アクセス JR新大久保駅から徒歩5分
講師 渡部 悠策さん
中国大連出身。
1943年に生まれ、1948年（当時3歳）から日本に移住。1970年に武道館で活動を開始し、父母と親子で日本に武術を伝へたいと活動。
問い合わせ CWS Japan 牧
TEL: 03-6457-6840
E-mail: public@cwsjapan.jp
居場所を失った人への緊急活動応援助成

太極拳で大切な呼吸法にはじまり、体幹を整える動き、歩き方にいたるまでいろいろなことを教えていただきました。ゲストの渡部さんは、毎日早朝には新宿中央公園に出かけて10,000歩以上歩くように心がけているということで、とてもパワフルな方でした…！！今回も中学生から80代まで、とても幅広い年齢層の参加者の皆さんと一緒に、多文化・多世代で太極拳を体験することができました。

2024/9/4 タイ・チー(太極拳)カフェ



多文化共生×防災について | 阪神淡路 & 東日本大震災の経験から考える

9月18日のカフェでは、昼・夜ともに防災をテーマにしたイベントを行いました。

昼カフェでは、「都市型災害と外国人」と題して、CWS Japanが日頃の活動で連携しているキリスト教教会ネットワークから「外キ協（外国人住民基本法を求める全国キリスト教連絡協議会）」と、初めてのコラボ企画を実施しました！そして、神戸からは、ゲストスピーカーに神戸学生青年センター飛田理事長が駆けつけて下さり、阪神淡路大震災の経験と今、コミュニティ・カフェ@大久保の取り組みについて、意見交換を行いました！



コミュニティ・カフェ@大久保 × 外キ協全国リレー集会・ジョイント企画
GAIKI-KYO 外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会
都市型災害と外国人
-過去からの教訓、そして今わたしたちにできること-
🕒 2024.9.18(水) 15:00-17:00
📍 日本福音ルーテル東京教会
東京都新宿区大久保1-14-14 (JR新大久保駅から徒歩5分、地下鉄東新宿駅より6~9分)
対面開催 (オンライン配信なし・後日録画配信あり)
首都直下型地震がいつ起きてもおかしくない東京。そこで、多文化・多世代共生を目指す取り組みを大久保で行っているCWS Japanと、29年前に起きた阪神淡路大震災時に神戸で外国人支援に奔走した経験を持つ、二人の支援者から話題提供を行います。災害が起きる前から今私たちにできることを皆さんと語り合いませんか？
牧由希子 (CWS JAPANディレクター/コミュニティ・カフェ@大久保総務責任者)
飛田雄一 (神戸学生青年センター理事長)
共催: コミュニティ・カフェ@大久保、外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会(外キ協)、日本福音ルーテル教会社会委員会、日本キリスト教協議会(NCC) 在日外国人の人権委員会
お問い合わせ: CWS Japan 牧 (03-6457-6840, public@cwsjapan.jp)
日本キリスト教協議会

飛田理事長からは阪神淡路大震災の時に外国人ルーツの人たちがどのような状況に陥ったか、それに対してどのような支援を行ったかなどの経験を共有していただき、その後参加者間でもさまざまな意見交換が活発に行われました。



当日はコミュニティ・カフェ以外にも、さまざまな団体から案内チラシや冊子などが寄せられました！ ©CWS Japan

そして、夜カフェでは「多文化共生×地域防災ケーススタディー」として、一般社団法人多文化社会専門職機構の菊池先生をゲストにお招きし、東日本大震災で経験した外国人被災者への取り組みから、今後の「多文化共生×地域防災」について参加者と共に考えるセッションを行いました。

菊池先生からは、日本の災害対策が外国人にはどのように見えるかなどをクイズ形式で参加者の皆さんに体験してもらいながら、東日本大震災の時に行われたさまざまな取り組みについて共有していただきました。

今回のカフェで集まってくださった参加者の皆さんの関心度合からも、外国人被災者に対する災害対応や防災意識は高くなっていると感じる一方で、いかにして地域防災に外国人の参画が得られるかは、現在も悩ましい課題であり、私たちも日々苦戦しています。

最も多様な国・地域から人々が集まっているこの大久保地域においても、「多文化共生×地域防災」をどのように進めていけるのか、引き続きこのような企画を行いつつ取り組んでいきたいと感じた1日でした。



約25名ほどの参加者の皆さんとのディスカッションが行われ、積極的な意見交換・ネットワーキングの時間になりました。 ©CWS Japan

菊池先生のnoteでも、当日の夜カフェについてご紹介いただきました！[こちらからぜひご一読ください。](#)

夜カフェ

多文化共生×地域防災

ケーススタディー

能登半島地震から半年以上が経過してもなかなか復興が進まぬ中、宮崎で震度6弱の地震が発生し、「巨大地震注意」が発表された。次は首都直下型地震か？地震を知らず、日本語能力不足から災害弱者に陥りやすい在日外国人。過去の大規模災害から得られた教訓は？今できることは？都内最大の多国籍タウン大久保で共に考えます。

ゲストスピーカー

菊池 哲佳 先生

一般社団法人 多文化社会専門職機構 理事・事務局長
桜美林大学 グローバル・コミュニケーション学群 准教授
2000年に仙台国際交流協会に入職後、主に防災事業、外国人相談事業、地域日本語教育事業を担当し、仙台市における多文化共生の地域づくりに努める。
2011年の東日本大震災では「仙台市災害多言語支援センター」の運営に携わり、外国人被災者を支援した。多文化社会コーディネーター（多文化社会専門職機構認定）。博士（政策・メディア）。

日時

2024/9/18 水

19:30-21:30

会場

コミュニティカフェ@大久保
(日本福音ルーテル東京教会内)

東京都新宿区大久保1-14-14
(最寄り駅：JR新大久保駅、100円ショップCan Do並び)

こんな人におすすめ

地域防災・多文化共生分野に関わる、または関心がある地域関係者・団体・市民・学生・研究者など

申込不要

参加費無料

この事業は文化庁「生活者としての外国人」のための特定のニーズに対応した日本語教育の委託事業です。

主催：コミュニティ・カフェ@大久保
問い合わせ：CWS Japan 牧 由希子
電話：03-6247-6840
メール：public@cwsjapan.jp

多文化都市 大久保で地域防災を考える

先日、CWS Japanが主催する「夜カフェ」に参加しました。テーマは「多文化共生×地域防災ケーススタディー」。参加者の自己紹介のあと、わたしから40分間くらいの話題提供をおこない、参加者どうしで意見交換しました。...

♡ 6

Akiyoshi KIKUCHI 菊池 哲佳
2024/09/25 00:59

10月のカフェ企画のお知らせ

通常、月2回開催しているコミュニティ・カフェ@大久保ですが、10月はいつも以上にさまざまな企画や出店を予定しています！



コミュニティ・カフェ@大久保
多文化・多世代共生のための大人の居場所

日時：毎月第1・3水曜日 13:00-17:00
場所：日本福音ルーテル東京教会
東京都新宿区大久保1-14-14 (JR新大久保駅から徒歩5分)

10月の予定

第3水曜日 (10/16) はお休みです！

営業日	イベント企画
10月2日 (水) 14:00-15:30	「今昔物語」上映会 (参加費無料・事前申込不要)
10月6日 (日) 13:00-15:30	映画「牛久」上映会&トーク (参加費無料・事前申込要)
10月14日 (月・祝) 11:00-16:00	大久保まつり 「ワールド・バザール」出店
10月19日 (土) 14:00-16:00	難民等生活者のライフステージと 日本語学習ケーススタディ

※イベントの内容・日程は事前のアナウンスなく変更する可能性がありますのでご了承ください。

交流、相談、他いの場として、コーヒーを飲みながら過ごすだけでもOK！

QRコード

なんと10月は4回もカフェがオープンします…！！（そのため、通常営業している第三水曜日はお休みとなります）また、平日だけでなく、土日や祝日にもイベントを開催するので、普段参加することが難しい方もぜひこの機会にカフェにお立ち寄りください！

また、10月14日(月・祝)には毎年恒例行事となっている新大久保商店街振興組合主催の「大久保まつり」に、去年に引き続き出店することになりました！

大久保まつり詳細についてはこちらをご覧ください。

難民申請者という隣人たち Asylum seekers, our neighbors

「寄留者があなたの土地に住んでいるなら、彼を虐げてはならない。」(レビ記19:33)
"When an alien lives with you in your land, do not ill-treat him." (Leviticus 19:33)



映画「牛久」自主上映会&トークイベント

日時：2024年10月6日 (日)
13:00-15:30 予定 (12:40開場)

1部：「牛久」上映会 (1時間30分)
2部：トークイベント

会場：日本福音ルーテル東京教会
(東京都新宿区大久保1丁目14-14)

入場料無料 定員30名

参加申し込みは右のQRコードより
お申し込みください。



※本イベントの参加にあたり、申し込みフォームに記載している注意事項への同意が必須となります。ご注意ください。

共催：コミュニティ・カフェ@大久保×日本福音ルーテル東京教会

問い合わせ：CWS Japan 牧・五十嵐

(TEL: 03-6457-6840、E-mail: public@cwsjapan.jp)

居場所を失った人への
緊急活動応援助成



コミュニティ・カフェ@大久保、
今年も大久保まつりに出店決定！

**World Bazaar
in 大久保まつり**

10月14日(月・祝) 11:00~16:00

日本福音ルーテル東京教会
東京都新宿区大久保1-14-14
(JR新大久保駅から徒歩5分)

イラン、エジプト、スリランカ、
チュニジア、ミャンマーなど
世界の国々の料理や雑貨を楽しめます！

問い合わせ CWS JAPAN 牧 03-6457-6840
PUBLIC@CWSJAPAN.JP

今年も大久保まつりにワールド・バザールとして
出店します！

今回もさまざまな地域・国の料理や小物を
楽しめるワールド・バザールを開催しますの
で、ぜひお越しください。

(文：プロジェクト・オフィサー
五十嵐望美)

特定非営利活動法人CWS Japan

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：

public@cwsjapan.jp

電話：

03-6457-6840



CWSJapan



@Japan_CWS



cws_japan